

## メールマガジン埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.214 2017.6.23

県議会広報テレビ「こんにちは県議会です」  
6月18日(日曜日)放送分「議長インタビュー」

県議会広報テレビ「こんにちは県議会です」では、各定例会の様様や各委員会委員長のインタビューなど県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメルマガでは、ご覧になれなかった方のために、18日に放送した「議長インタビュー」の内容をお伝えします。

また、明後日25日(日)には「副議長・議会運営委員長インタビュー」が放送されますので、ぜひご覧ください！

【放送時間】テレビ埼玉 朝10時～



[☆詳しい放送スケジュールはこちら](#)

## INDEX



県議会広報  
こんにちは県議会です「議長インタビュー」



議事堂の花  
生け花のご紹介



## 県議会広報

## 【こんにちは県議会です】「議長インタビュー」

第120代埼玉県議会議長に就任された小林哲也議長に、就任に当たっての抱負や決意などを伺いました。

〈小林哲也 議長〉

昭和34年生まれ(58歳)

埼玉県議会自由民主党議員団

北第5区 熊谷市選出

平成15年 県議会議員初当選(現在4期目)

これまで、県土都市整備委員長、文教委員長、議会運営委員長など

の要職を歴任し、平成27年には、埼玉県監査委員を務め、今年3月に埼玉県議会議長に就任

### 《議長としての抱負》

— 議長に就任されての抱負をお聞かせください。

—

議長 埼玉県は、急速に進む少子高齢化や大幅な社会保障費の増大など、解決すべき課題がたくさんあります。このような重要課題を解決していくためにも県議会の果たす役割と責務は極めて重要です。



私も微力ではありますが、これまで培った経験を生かして、県民誰もが心豊かに安心して暮らすことができる社会を実現するために、全力を尽くしてまいります。

### 《政治家を志したきっかけ》

— 政治家を志したきっかけをお聞かせください。—

議長 私の父が市議会議員、県議会議員や市長を務めておりましたので、子供の頃から政治の世界は見ておりました。家では厳しい父が、市長として常に人を気遣う姿を見たり、また、選挙の時の家族の大変さも感じておりましたから、実を言うと最初はなりたくないと思っていました。

何よりも、選挙に出るといことは、目をつむって屋根から飛び降りるようなものです。何人の方が下で支えてくださるか、私には自信がありませんでした。

— 政治家という家庭環境で育ったのですね。お父様も後継者として心強かったのではないのでしょうか。—

議長 周りの方から「親父の後を継いではどうか」というお声もいただきました。その時は家業を継いでいましたが、私自身も政治に対してまだまだ悩んでいた頃でした。そんな迷いを知ってか、父からは「政治家になって何をしたいのか。親が政治家だからなるというのならやめなさい。」と言われました。

— それだけの覚悟と志が必要だということを伝えたかったのでしょうか。—

議長 そうですね。父が市長退任後に病に倒れた時、父の顔を見ていてふと思ったんです。「父が命を懸けてまでやってきた仕事を見てみたい」と。

今まで政治家として本当に一生懸命やってきた父の姿を子供の頃から見てきましたから、父に引き続いて自分も同じ仕事をしてみたいと強く思いました。

— お父様のお姿が、小林議長に大きな影響を与えていたのですね。—

議長 そして、政治家として父のように地域の役に立ちたい、皆さまの信頼に全力でお応えしたいと決意いたしました。その気持ちは今も変わることはありません。地域の皆さまのご推挙には本当に深く感謝しております。

### 《印象に残っていること》

— 現在4期目ですが、県議会議員として、これまでにさまざまなお仕事に取り組んでこられたと思います。その中でも特に印象に残っていることはなんですか。—

議長 この議員生活15年で、5年前に政権を奪還した時が特に印象に残っています。

私はこの時、自分が政治家になった意味を改めて感じました。政治家になった意味は、まず地域と県とのパイプ役になるということです。パイプは山を登ることと同じで、いくつもの道があります。これまで築いてきた道が閉ざされないように地域を守っていくにはどうしたらいいのか、厳しい選択を迫られました。今は、地域の先導役として、パイプとなる道の一つを守れたかなと思っています。

— 時代の先を見越していく政策も大切ですね。—

議長 県議会は「自ら考え、自ら行動する」べきだと思っています。議会が自らモノを考えて、執行部の議案に対しても、それぞれの議員が調査研究しながら発言することが健全なことだと思います。

県議会は、市町村議会議員を経験してから県議会議員になった方、政治を志して最初から県議会議員になった方、また、会派もさまざまです。それぞれの議員の皆さんが活発に論議することができる県議会であってほしいと願います。

《力を入れている分野》

— 話が変わりますが、議長の地元の熊谷市はラグビーワールドカップの会場になっていますよね。—

議長 2019年にラグビーワールドカップが県営熊谷ラグビー場で開催されます。現在、ラグビー場を改修していますが、より良いものになると思います。

— 楽しみですね。議長はよくラグビーを観戦されますか。—

議長 私は小学校の頃に熊谷ラグビースクールの1期生でしたので、趣味としてずっと見に行っています。どんなスポーツでも言えることですが、ぜひ生で見てもらいたいですね。ぶつかり合う音、ボールを一心不乱に追いかける選手の姿は、勝っても負けても感動します。



— スポーツは生で観戦するほうが、その場の迫力といい、心に直接訴えてくるものがありますよね。—

議長 2020年には東京オリンピック・パラリンピックが県内でも開催されます。去年、リオオリンピック大会後に訪問したブラジルでは、未来に残すべきレガシーがあまり見られなく、少し残念に感じました。

— レガシーというと、前回の東京大会では、開催をきっかけとして新幹線や高速道路といった交通網の整備などがレガシーとして残りましたね。—

議長 はい。次の東京大会では、皆さんがサッカーやゴルフをやってみたいと思えるようなスポーツの聖地に本県がなるように、一過性の盛り上がりだけでは終わらせず、埼玉の発展につながるようなレガシーを創っていきたいと思います。

— スポーツを中心としたレガシーですね。—

議長 はい。そして、こうした国際大会にぜひ県民の皆さんにも関わっていただきたいと思っています。観戦も良いですが、会場整理やチケットもぎりなどのボランティアとして参加することで、東京オリンピックという歴史に立ち会うことができます。そういうところへ行くと絶対に何か得るものがある、その何かは事の大小に関係なく、終わった瞬間から自分の歴史が変わります。

スポーツだけでなく、文化の祭典でもありますので、ぜひ、多くの県民の皆さま

にはこういった活動に参加して、心から楽しんで、大会を盛り上げていただきたいと思います。

— 国内外から訪れるお客様に、県民の気持ちが伝わるといいですね。—

議長 これまでは施設のハード面が注目されていましたが、これからは世界に誇れる「おもてなしの心」を含めたソフト面に力を入れていただきたいと思いません。

《趣味について》

— 議長のプライベートなども伺ってまいります。趣味はどのようなことが挙げられますか。—

議長 一つはスキーです。最近はやりにくくて、あまり行くことができませんが、多い時には1シーズンに5回くらい行きますね。

— スキー歴は長いのですか。—

議長 はい。小学校2年生頃から始めました。10年ほど前にスキー検定の1級を取りましたが、それまではファミリースキーでした。スキーは家族でも楽しめるスポーツです。反抗期の子供も「スキーに行こう」と誘うと一緒に付いてきてくれました。



— 子供から大人まで楽しめますよね。—

議長 用具自体もどんどん改良されているので、高齢者になっても続けられる生涯スポーツだと思います。スキー場のリフトに乗って、何も考えずに雪景色を見ている瞬間が好きですね。

— 他に趣味はございますか。—

議長 もう一つは茶道です。習い始めて10年になりますが、茶道の先生も習っている生徒もみんな男性なんです。待屋で足袋に履き替え、蹲(つくばい)で手を洗い、躰(にじ)り口からお茶室に入って稽古します。

— 本格的な茶室ですね。全員男性というのは珍しいですよ。—

議長 そうですね。茶道は考え事をしていると手順がバラバラになってしまいます。無心になっているのか集中しているのか分かりませんが、何も考えないことが一番自然に体が動きます。



— 日頃お忙しい中で、充実した時間なのですね。—

議長 はい。例えば、ゴルフだと打ち終わると次に何をするか考えたり、政治のことを考えてしまいます。常に頭の中に何か考え事がある状態が続きます。スキー場のリフトに乗ってぼんやりと雪景色を眺めている瞬間や、無心でお茶をたてている瞬間は、一番のリラックスタイムになります。そういう時間はありがたいと思います。

《座右の銘》

— 座右の銘、あるいは常に心掛けていることはありますか。—

議長 「和して同ぜず」という言葉です。議会というのは言論の府ですので、協調したり調和を保って行動することは必要だと思いますが、道理や信念を忘れてまで人に合わせるようなことはしないということです。しっかりと自分の考えを持ち、初心を貫くということを自分に言い聞かせながら、議員としての仕事を務めていきたいと思っています。

《今後の抱負》

— 今後の議会運営に当たっての抱負をお聞かせください。—

議長 私たち議員は、県民の皆さまの声を県政に反映させるため、積極的に政策を提言していくことが県民の負託に応える道であると考えております。二元代表制の一翼を担う県議会がその役割を果たすことができますよう、土屋副議長と力を合わせ、各会派の皆さまの声をよく取り入れながら、公正かつ円滑な議会運営に全力を尽くしてまいります。

県民の皆さまには、今後とも県議会に対する一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

— 小林議長、今日はありがとうございました。—

議長 こちらこそありがとうございました。また、いつでもお越しください。

[▲トップへ](#)

## 議事堂の花

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。  
【協力 埼玉県いけばな連合会】



展示期間：  
6月12日～6  
月16日  
作者：関東未  
生流  
大野芳甫様  
花材：はらん

◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇



〈関東未生流 大野芳甫様〉

Q: 今回の作品のテーマを教えてください。

A: 「とまりぶね」です。船の形に似た竹製の花器に、はらんを帆に見立てて生けることで、港に泊まる船の様子を表現しました。また、はらんで曲線を描き、風が吹いている様子も表現しました。

Q: 趣向を凝らした点を教えてください。

A: 「体(たい)・用(よう)・留(とめ)」の三点で作られる美しい三角形(高い位置を体、低い位置を用、その中間を留といい、それぞれ「天・地・人」ともいう)をはらんで作ることを意識しました。また、花材を株分けする(二つのまとまりに分けて生けること)ことで、船上ににぎやかさを出しました。

☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご覧になれます。≫

[▲トップへ](#)

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから](#)≫

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちらまで!

E-mail [a6250-03@pref.saitama.lg.jp](mailto:a6250-03@pref.saitama.lg.jp)

埼玉県議会事務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257/FAX 048-830-4923

Copyright 2008. Saitama Prefectural Assembly 無断転載を禁じます。

